

令和3年度 新採用教職員辞令交付式 式辞

(日時) 令和3年4月1日(木) 午前10時

(場所) 埼玉会館

御紹介いただきました、教育長の細田眞由美でございます。

令和3年度さいたま市公立学校新採用教職員辞令交付式にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

ただ今、辞令を交付しました309名の、意欲と情熱に満ちた皆さんを、さいたま市教育にお迎えできたことを、大変うれしく、心強く感じております。今日、皆さんにお渡しした辞令には、さいたま市の教育界に新しい風を送り込んでほしいと願う市民の期待が、子どもたちの健やかな成長と幸せを願う保護者や地域の方々の熱い思いが、込められています。皆さんの活躍を心から御期待申し上げます。

さて、昨年度は、誰も想像しなかった新型コロナウイルスの脅威が、私達の暮らしに深く影を落としました。3か月にわたる学校の臨時休業、そして、学校再開後も「新しい生活様式」のもと、子どもたちに多くの我慢を強いる学校生活が続きました。ワクチン接種が始まりつつ、今も、終息に向けた時間の針がどこまで進んでいるのか、不安が続いています。私たちは、これまでの当たり前が当たり前でないことを、国全体で自覚したことにより、世の中はこんなにも変わるのだということを痛感させられました。企業ではテレワークが急速に普及し、あっという間に日常化しました。学校でもGIGAスクール構想により、一人1台の情報端末、クラウド、オンライン授業など、これまでいつになったら実現できるのかと考えてきたことが、一気に現実のものとなりました。今ここで、私たちは新型コロナウイルスで失ってしまったことを憂えるのではなく、教育改革に向け、歩み出す大きなチャンスを与えられたと考えていかななくてはなりません。そして今なら日本の学びを変えることができる、今でなければ変えることはできないのです。

皆さんが、教員として第一歩を踏み出す令和3年度を、学びのパラダイムシフトに向け歩み出す重要な一年ととらえ、ポストコロナのさいたま市教育の飛躍を期して、前進してまいりましょう。

私は、皆さんをお迎えするにあたり、国語教育研究者である、50年にわたって教壇に立ち続けた、伝説の国語教師である大村はま先生の著書『教えるということ』の中にある「仏様の指」についてお話しします。大村先生は御自身が参加されていた勉強会で、先輩の先生から次のようなお話を伺いました。「仏様の前を重たい荷物を押した若者が通り、ぬかるみにはまって動けなくなりました。その男は、ぬかるみから抜け出そうと必死になって荷車を押すけれど、なかなか抜け出すことができない。男は汗びっしょりになって苦しんでいる。しかし、どうしても車は抜けない。その時、仏様はしばらく男の様子を見ていらっしやっただが、ちょっと指でその車に触れられた。その瞬間、その荷車はすっと

ぬかるみから抜け出ることができ、男はからからと車を引いていった。」

大村先生にとってこの話は日がたつにつれ、年がたつにつれ、深い感動となっていきました。そしてもし、その仏様のお力によってその車を引き抜けたことを知ったら、男は仏様には心から感謝したであろうし、それも幸福な思いではあるが、自分に対する大きな自信は生まれなかったのではないかと考えます。仏様の指のような、見えない力添えで、男は自分ががんばったから荷車を動かすことができたなどという成就感、達成感が生まれ、次なる力につながっていく。大村先生は、これこそが教師の役割ではないかと、天啓を受けたように感じたこと、その著書の中で述べておられます。

転じて、今、私たちのおかれた現状に目をやってみますと、キーワードは主体的、対話的で深い学びを促す、「GIGAスクール構想」です。数十年の時を経て「仏様の指」で語られているとおり、私たちが教えることの核にあるのは、子どもの自らの学びをどう引き出すかであるということに、もう一度気付かされました。そして、教えるということは、学びに向かって格闘する子どもを見守りながら、気付かれることのないようにそっと指を添え、自分の力で学びをものにさせていく営み、そのことであるという風に深く共感するところとなります。私たちの取り組む、ICTを駆使したアクティブラーニング型授業が、現代の「仏様の指」たる教育手法であるとするならば、私たちは教育のプロフェッショナル、そして教育そのものを愛する人間として、その力量を高めていかなければなりません。未来社会を生き抜く、私たちの目の前の全ての子どもたちに、自分の頭で考え抜き、たくましく生き抜く力をつけていかなければなりません。

さあ、皆さん。今日から皆さんは、子どもたちを導き、育てるという、「仏様の指」に値する崇高な職責を担うこととなります。たとえ苦難や困難に遭遇しても、初心を忘れることなく、それぞれの立場で、さいたま市の教職員として、その力を存分に発揮されることを期待しております。子どもたちへの指導等に悩むことがあっても、決して自分ひとりで抱え込むことなく、周りには、本日一緒に辞令を交付された仲間や、懸命に努力を重ねている諸先輩方がいることを忘れないでいただきたいと申し上げます。

結びにあたり、皆さんが健康に留意されるとともに、日本の将来を担うさいたま市の子どもたちのために、精一杯御活躍されますことを御祈念申し上げて、私の式辞といたします。本日は誠にありがとうございます。

令和3年4月1日

さいたま市教育委員会教育長 細田 眞由美